

鈴木章治と

リズム・エース・リサイタル

小島正雄



— 章 ち や ん —

— 小 島 正 雄 —

いつもにこにこ笑っている章ちゃんはあるで、なかなかガンコである。生まれつきの性分らしいが、ちょっとやそっとのガンコではない。今日リズムエースが日本ジャズ界に立派な足跡を残しているのも彼のガンコのせいである。私もたびたび章ちゃんといっしょに仕事をするチャンスを持ったが、その度ごとに何かしら彼のガンコさの増補改訂版を発見して、あのヤセッポチのどこにこんなガンコさが入っているのかと改めておどろく始末である。彼の左半身はガンコで、右半身はファイトででき上っているのかも知れない。世間にはエセガンコとエセファイトを売り物にする連中が多いものである。

しかしこんな連中は声を大に、宣伝これ努めるものである。ところが章ちゃんはおどろくほど無口だ。体の悪い時、休憩時間に1人楽屋に横たわっていても、ステージに上ると、不快指数60以下の顔付で、いともはれやかな演奏をくりひろげて、聴衆を楽しませてくれる。リサイタルの楽屋で、プログラムとは関係のないクラリネットの練習曲を繰り返し繰り返し吹きつづける章ちゃんを見たことがある。

これまさにガンコの標本である。

昭和21年夏、私は復員してすぐ、横浜でミュージシャンとして働きはじめた。やがて冬になって板片のうちつけてある国電の中で、海軍の外套を着て、クラリネットのケースを大事そうに小脇に抱えた可愛らしい少年を見つけた。

これが章ちゃんだった。兄さんの敏ちゃんのかげにかくれるようにしてだまっていたが、目玉がかがやいていた。ガンコの章ちゃんは毎日おひる頃から職場へ現われて練習していた。その頃から今日までベニー・グッドマン1本槍なのだから、まさにガンコ呼ばわりに価するのである。彼はガンコだから、あれこれ口に出して物はいわない。シャベル暇があれば、クラリネットを吹いているのである。いいたいことは、だから、クラリネットが充分伝えてくれると、彼は固く信じているのであろう。

「好い音楽に言葉は要らない」借り物であるが、これが章ちゃんのリズム・エースに捧げる私の言葉である。

メンバ ー

クラリネット
ヴィブラフォン
ピアノ

鈴木章治
松崎竜生
橋本光雄

ギター 木母修三
ベース 山下高司
ドラム 田畑貞一